

# 染香

ぜんこう

福泉寺寺報  
令和5年11月  
第120号  
毎月1日発行

ホームページ



お寺 LINE



子ども行事



## 前住職が往生しました

先日あるご法事で、「お浄土は英語で『ピュアランド』と言って、怒りや悲しみ、妬みなど混じりけのない純粋な世界、と翻訳します」と話しました。すると一人の女性が「いいな、行ってみたいな」とつぶやいていました。心に残りそうな場面です。

前住職の通夜・葬儀では本当に多くの皆様に送っていただいて、感謝の念に堪えません。改めて御礼を申し上げます。

おかげさまで満中陰も済み、いよいよ「独り立ち」ゆかねばと、思いを新たにしています。仏前で手を合わせると、いろいろな思いが頭の中をよぎります。生まれ育った環境も、性格も違う私たちですが、心の中では、確かに一本の「絆」がありました。それは「ナンマンダブ」の世界です。それは、

・どんな貴方であっても、受け入れる、引き受ける、という阿弥陀様の心

・人を泣かさない生き方、見返りを求めない生き方こそ、いのちあるものにとって最も尊ばれる生き方であることを教えてくださるお姿です。

今年でちょうど「福泉寺入寺五十年」であった前住職ですが、この間には、皆様から頂いた尊い心や、決して人には伝えられない悲しみもあつただろうと思います。そんな悲喜こもごもを想像すると、涙が浮かんできます。

入院時に携えた日用品や書類などを詰め込んだ袋を、いつまでも整理できないでいる前坊守を見て、「おかあさん、大丈夫、大丈夫だから」と心の中で思っている日々です。

またこの短い期間に、前総代長さん、前々坊守、前住職の双子の兄が旅立ち、それぞれのご家族の思いを察するに余りあります。

「急にお浄土がにぎやかになって、各々、もはや病気に悩まされなくてもいいね、きつと向こうで一杯ひっかけながら、まだまだ路頭に迷はねばならない私たちを案じてくれているんだね」と思わずにはおれません。

お浄土があるのか無いのかなど、わたしたちにはわかりません。わかりませんが、「あつたらこの寂しい思いをすくい取ってくれるのだから、うれしいね。ありがたいね」という思いの中でこの世界を生きていけるのなら、やっぱり『おまかせ』だよな、という気持ちです。

(住職)

## 真宗の法事 あれこれ

【おみがき】

お仏壇の中のものを出せるだけ出して、一つ一つ丁寧に磨く作業が「おみがき」といいます。地域によってはどの家も昔から続き、関西や北陸では姑さんがお嫁さんに、和綴じの「レシビ」を伝授するそうです。

仏壇の中は、少し触ったら壊れそうなイメージがあります。また、「一度動かしたら配置が分からなくなる」ことも心配して、なかなかおみがきまで至らないかもしれません。

ご縁がありましたら、一緒にやりましょう。その時は、仏具がピカピカになる道具を持参します！



## ちょっと あたまの こりほぐし

ベテラン俳優と新人俳優が

お茶を飲んでいました。

さて、二人のうち、茶柱が立っていたのはどちら？

答えは裏面です



うまいぞ〜



## おてらより

### 報恩講のごあんない

日時：十二月三日(日)

朝席 十時

昼席 二時

講師：丸山 文雄 使

新潟市西区 萬榮寺 住職

### 無縁改葬のご案内

お寺の境内地にあるお墓について、使用者が不明のお墓を撤去する手続きを開始いたしました。当該墓に「プレート」を付きました。情報のご提供を宜しくおねがいいたします。



西本願寺・御影堂

## 式辞（前住職葬儀での

総代長様あいさつ）

前住さんの門徒葬に際し門徒を代表して哀悼の辞をもうしあげます  
先日 前住さんの訃報を受け 前住さんとの思い出が次々と思ひ出され悲しみに堪えません

前住さんは府中の徳円寺様から昭和四十八年に福泉寺第二十六世住職として入寺され 私たち門徒をしつかり導いてくださいました

その在任期間に梵鐘（ぼんしょう）、鐘楼（しょうろう）の再建、本堂の屋根の吹替え、内陣・境内の整備、本堂後門（ごうもん）増設、そして庫裡（くり）・門徒会館の新設など多くの実績を残され 現在の 福泉寺の姿を造ってくださいました

また鴨川組（こうせんそ）の子供会すなわち仏教子ども研修会の発足を呼びかけられ その会は今日まで続いており今年も開かれるとお聞きしています

その子供会のおかげをもちまして 私たちの子供や孫達が お寺に親しみをもち 大きな声でお経を唱えることが出来るようになりました  
子供達の心の成長に大いに役立ったと

思うと 本当に有難く感謝しております

私事ですが 前住さんと年齢が近いせいか 親しく声をかけていただきました

報恩講参りに来ていただいた時に 御文章の「聖人一流の章」について「この御文章は真宗門徒の入り口であり 同時に最後の目標かもしれません」と言われ その内容を教えていただきました  
それ以来 私は毎朝のお勤めの時には この御文章の内容をかみしめながら拝読しています

今思えばその日が前住さんによるわが家への最後のお参りでした そしてその日が私にとって大切な日になっていきます 本当にありがとうございます

ある日前住さんが「亘さん 難病になってしまったよ」とおっしゃいました 私は「頑張っていればそのうちいい治療法が見えますよ」と意味のないお答えをしたと思います その後、お会いする度に徐々に不自由さが増していくお姿を複雑な気持ちで拝見していました

そして昨年五月頃 住職さんが「前は歩くことも 食事をすることも 会話をすることも難しくなり 文字盤に

指をさして 思いをつたえてくれていました 昨日は不自由な手で『野バラのように自由になりたい』と伝えてきました」と話されました

風に揺れる野バラを自由に動けることの象徴としての言葉だったのででしょうか

前住さんは毎晩 就寝前のお勤め時 阿弥陀様 親鸞聖人 蓮如上人 聖徳太子 七高僧へと一々座る向きを変えながら「ありがたいことです」「すまんことです」「もったいないことです」と言って合掌礼拝され その後 正信偈を唱えられていたそうです

住職さんはそのお姿を初めて拝見した時の感想を次のように言われていました

「読経の上手なお坊さんや 法話の巧いお坊さんに憧れながらも 仏に向かう父の姿に『僧侶の基本はここにあり』と教えられ このことは いつまでも心にとどめ 温めていきたいと思った」と

前住さんご安心ください 前住さんの思いはしっかりと住職さんそしてお孫さんへと引き継がれています  
私たち門徒も 住職さんの指導の下

一層力を合わせ お寺を支えてまいります

どうかお浄土で 野バラのように自由を楽しみながら 南無阿弥陀仏となって 私たち門徒を導いてください

令和5年9月29日

葬儀委員長 栗原亘

## 編集後記

「漬物」が好きです。

昔、親の存在を疎ましく思った日々がありました。自分の思いをうまく伝えられない、伝えられたとしても受け入れてもらえていないと感じたときは、衝突してでも自分を貫こうとしていました。

いま、思います。そうか！親は「漬物石」だったんだ。重りがなければ、いい味を出せない。親の方はどう思っているかわかりませんが、はからずも、そのようになっているのだなあ、と思います。

ちなみに私の好きな漬物は、古漬けです。前住職も好きだったそうです。

